

平成 29 年 11 月 6 日

文化通信(9 面)に掲載されました

# 地域を根幹とした企業が出版で無償向上

## 日東精工

京都府綾部市に本を通じて企業価値を高め、地域貢献に取り組む企業がある。ねじ(工業用フランジ)の製造販売を手掛ける日東精工は、2014年にボブラ社から『人生のねじ』を著者の教えを刊行。3刷1万2000部と販を重ね、図書館への図書寄贈も行っている。

日東精工は東証一部上場で月に置き、地元のつながりを大産約10億円のねじを製造する。界トップクラスのねじメーカー『人生のねじ』を著る。1。本社と主要工場を綾部市は、同社が社員研修用に使うてきたオリジナルテキストの



教育用テキスト(上)と下左から『人生の「ねじ」を巻くー』、同書台湾版、『驚きの地方創生ー』

## 出版総合

## 社内テキストを書籍化

## 印税で図書館に図書寄贈



本社玄関前に立つ荒賀氏

エッセンスを1冊にまとめ、よ描いた。同社経営企画部長兼監査部長・荒賀誠氏は、市販本を出したことで「自分たちの会社の本が書に並んでいるのは嬉しい。お取引先に本を持っていくと信頼性が改めて感じた」と効

果を語。

そして、同書の印税を「地域に役立つ本はないか」との思いをこらして「ねじのある街・あやへへ」で、綾部市図書館への図書寄贈への魅力を「あやへへ」をまとめた『あやへへ』を刊行した。

14年から「ニュースレター」の発行を開始。ここで連載しているコラム「ねじのある街・あやへへ」の魅力を「あやへへ」をまとめた『あやへへ』を刊行した。

0冊を購入し夏休み前に寄贈。この新刊は『人生のねじ』を著る。3回目の今年7月16日に題を巻く』にも関わり、『驚きの地方創生』京都・あやへへ(扶桑社新書)の著者であるワトリング・浦田正樹氏が企画刊行に向けて、市民アンケートの結果を本に盛り込み、『あやへへ』大好きBOO K「プロジェクト」も展開している。

日東精工は2008年に地域の雇用創出を目的に設立され、いまでも地域にたわわと事業を結びつけている。そのためこれら本作りには綾部市多くの人が積極的に協力しているという。

「市をあげてまわりやすい地域だ」といいます。本作りを通じて改めて「あやへへ」荒賀氏は地域活動としての出版の意義も語った。

紙質のよさを活かしたメール hensyu@hunkanews.co.jp まで